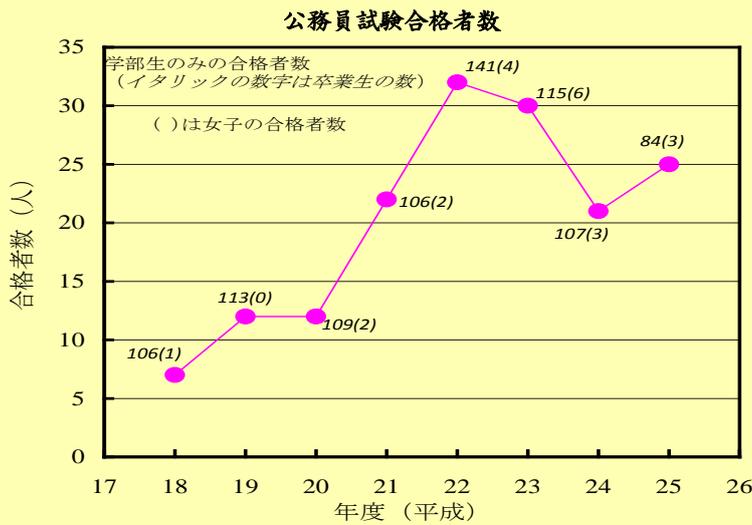


土木会通信 第8号 平成26年7月1日

社会環境工学科における公務員試験合格者の推移

米田 昌弘 教授

技術職公務員試験の中で最も募集が多いのは土木職で、社会環境工学科の大きな特徴は、他大学の同系列学科と比較して、この土木職公務員試験に合格する割合が非常に高いということです。公務員試験の合格者数と合格割合の推移を図-1に示しますが、教員が一丸となって取り組んだ結果、H25年度は25名（卒業生数84名）、H24年度は21名（卒業生数107名）、H23年度は30名（卒業生数115名）、H22年度は32名（卒業生数141名）もの学生が難関の公務員試験に合格しました。



この合格者数は全国の土木系学科の中で、屈指の数を誇ると自負しています。なお、H24年度の合格者数は21名に低減しましたが、これは卒業生数が107名（H21年度とほぼ同数）まで大きく減少したことに加え、土木系企業の求人が大幅に増加し、早々に公務員試験を回避して民間企業に希望変更する学生が多くいたのが主な要因です。ただし、H25年度は卒業生数が84名（入学定員は80名）であったにもかかわらず、公務員試験の合格数は25名で、合格割合は過去最高の29.8%となりました。

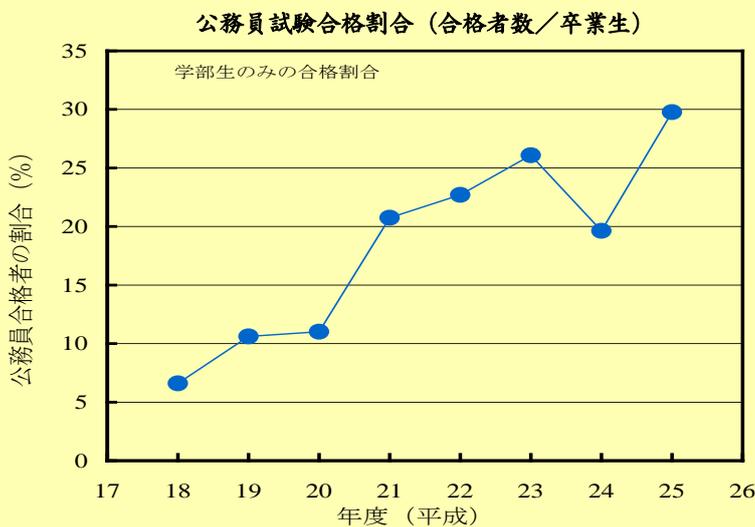


図-1 公務員試験の合格者数と合格割合の推移

H25 年度卒業生の業種別就職先を図-2 に示しますが、これまでは進路未定者とその他の業種に就職する学生の合計割合は 20%~25% 程度もありました。その他の業種に就職した卒業生は 3 年以内に離職する割合も高いことから、今後はこれまで以上に進路に関するキャリア指導を徹底的に行っていく必要があると考えています。

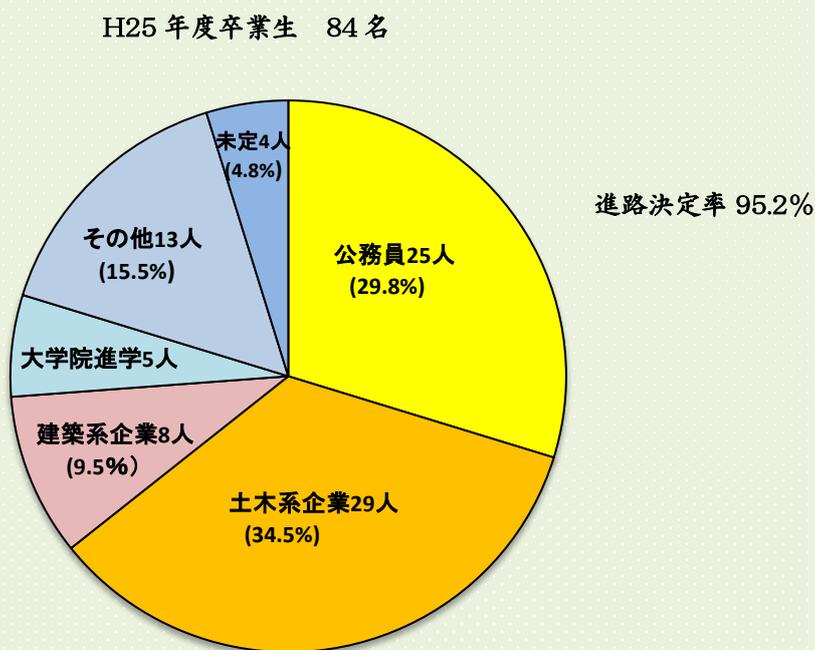


図-2 H25 年度卒業生の業種別就職割合

キャリア支援・交流会開催のお知らせ

近畿大学土木会では、今年も全学年対象にキャリア支援、その後土木会会員である卒業生との交流会を 10 月 4 日(土)に開催いたします。

在学生は、卒業生である先輩方と気軽にお話ができます。

会員の方も今現在の学生を感じて頂ける良い機会になることと思います。

詳細は在学生には学生掲示板に掲示、会員にはホームページ、メール等でご案内いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

天神祭

近畿大学土木会会長 野田 文久 (昭和55年卒業)

皆さんは、大阪の天神祭についてご存じですか。

船渡御ばかりが有名になっていますが、朝の連ドラの「ごちそうさん」で描かれていた獅子舞もお祭りの一部です。天神祭は、大阪天満宮の夏大祭のことで、西暦951年に始まったと伝えられています。

お祭りは、7月24日朝の宵宮祭(7:45～)から始まり、続いて堂島川の鉾流橋の旧若松の宮齋場にて鉾流神事が斎行(8:50～)されます。この神事により神鉾を流して御神慮(神のこころ)をうかがうと共に罪穢れを人形など祓えつ物に移して流し清めることによって市中の平安を祈ります。昔は神鉾が漂着した地をその年の斎地と定めて神様をお迎えていました。(船渡御もその斎地まで巡行していたそうです。)毎年、この鉾流神事を終え、神社に戻ると地車離子が鳴りだし、獅子舞も氏地をまわっており、「今年もお祭りが始まったんだなあ」と思います。

その後、獅子舞や催太鼓が氏地を巡行したり、氏地の御神輿が宮入したりします。

25日になるとお祭りのクライマックスである渡御行事が始まります。まず、本宮祭・神霊移御の儀(13:30～)が行われ、御神霊を「梅の端枝」を用いて御鳳輦という神様の乗り物にお移しすると催太鼓を先頭に隊列が神社を出門し、陸渡御(15:30～)が始まります。陸渡御の渡御列が大阪市役所、大阪中央公会堂を経て天神橋北詰に到着すると、そこから船に乗り込みます。

ここから有名な船渡御(18:00～)の始まりです。催太鼓船を先頭に、御神霊が乗る御鳳輦奉安船、鳳神輿奉安船、玉神輿奉安船等が大川下流の天神橋から桜宮橋、都島橋を経て飛翔橋上流で転回し、再び天神橋まで戻ってくる一方、御鳳輦をお迎えする船(奉拝船)が大川上流の飛翔橋から天神橋付近で転回し飛翔橋まで戻る経路で運行されるため、総勢百隻を超える船が大川を埋め尽くします。(往復7kmの距離を2時間かけて運行するため、航行というより渋滞と言った方が正しいかもしれません。)この船渡御の間にも御鳳輦奉安船の上では献茶式等の神事が行われています。

船渡御を終え、陸に上がった御御列が神社に宮入し、還御祭(御神霊を御鳳輦から本殿へ御還しする神事)が行われ、お祭りが終了します。



鉾流神事「神童」が神鉾を流しているところ



クリック

ここで、皆様の知りたい(と思う)情報について書いておきます。

(問1) 船渡御の船に乗るには?

(Ans.) お祭りの観客(約100万人)に対して、船に乗っている人が約一万人と言われているので、非常に狭き門となります。

しかし、方法がないわけではありません。

① 「市民船」という船があり、50組100名が無料で招待されます。

詳しくは、大阪天満宮のホームページ(tenjinsan.com)にて。

② 乗船券を販売している船があります。近年はホームページで検索すれば出てくる場合もあります。費用は一人2~3万円程度。

③ 天神祭に船を出している企業のお得意さんになる。

(なかなかしんどいかな)

番外：作業船のロープワークを練習すれば……

私の会社に大口の仕事を発注する。(冗談です)

(問2) 船渡御を陸から見るのに良い場所は？

(Ans.) 橋の上は規制がかかるため、川沿いの公園から見るのがよいでしょう。

花火がよく見えるのは、OAP付近および川崎橋～桜宮橋間の左岸側（南側）ですが、相当人が多いため早く行かないとダメです。

花火が見られなくても良いのであれば、源八橋～飛翔橋間が比較的空いています。

なお、天満宮に大口寄付をすれば、造幣局の向かい側にある栈敷席の券がもらえることもあります。

(あまり期待しないで下さい。)

(問3) 船渡御に使用する船は普段はどうしている？

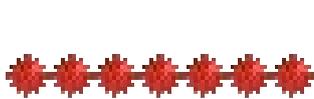
(Ans.) 船渡御に使用する船には大きく分けて4種類の船があります。

- ① 水上バスや屋形船のような旅客船。(普段も同じ)
- ② 砂船。(普段は淀川(枚方の方)で砂を採取しています)
- ③ 台船(B8m×L20m)(普段は河川工事の資機材運搬用)
- ④ 土運船(100m³積)(普段は河川の浚漂土砂を主に運搬)

なお、③、④の船は自航出来ないため、引船を前後に付けて運行します。

ちなみに、船渡御の船に乗った人の感想としては、

- ① 岸が人だかりなのにこちらは船に乗っているという優越感がある。
- ② 花火が頭の上で上がり、きれい。(少しうるさい)
- ③ 暑いだけだった。



ひ・と・こ・と



卒業後、54年の歳月が過ぎ喜寿を迎えましたが、いまだに学舎のことがなつかしく、時折一杯飲んで校歌を歌うことがあります。土木関係の仕事一筋に七十歳まで頑張りましたが、現在は引退し、趣味の書道と囲碁などを楽しみながら山里で生活しております。学生時代には書道部に所属して以来、下手な書道は生涯の道楽であり、限りなき世界を感じ、囲碁は学生時代、友人の手解きにより少し打っておりましたが、老後再開し、現在は三段を目指して頑張っております。

長い人生において趣味と友人は大変大切なことは言うまでもありませんが、学生時代は勉強だけではなく、いい友人にめぐり会い、自分に合いそうな趣味をいくつか味あわれんことを後輩諸君に特におすすめしたい。
(S.33 卒)

名簿発行ご案内の際に会員の皆様に一言をお願いしました。
今回はお寄せ下さった中から一部を掲載いたします。



一言をお寄せ下さいました
会員の皆様ありがとうございました。



【編集後記】今夏も暑い夏となるのでしょうか？皆様お身体を大切に楽しい日々をお過ごし下さい。

近畿大学土木会：〒581-0811 八尾市新家町 8-23-1 TEL06-6730-5880 内線 4654

e-mail: dobokkai@civileng.kindai.ac.jp

<http://wsb.cc.kindai.ac.jp/civileng/ri25/cse/dobokukai/hyoushi.htm>